

在沖外国人有識者等のプロフィール

	視点	氏名	出身 (国籍)	プロフィール
1	外国人泡盛愛好家	 ティル・ウェーバー	ドイツ	・琉球大学国際地域創造学部教授 ・ドイツ出身で20年ほど前に来沖。泡盛が好きで県内で泡盛外国人同好会を主宰。 ・2018年6月27日に開催された「琉球泡盛輸出セミナー」(ジェトロ沖縄・沖縄県酒造組合共催)で、「泡盛の魅力をどのようにして外国人に伝えるか」について基調講演
2	外国人泡盛愛好家	 サンドリン・ブリエル	フランス	・沖縄科学技術大学院大学 博士候補、エンジニア(電気・電子・電波・情報工学)、技術翻訳者(専門:細胞生物学) ・2005 年に空手と古武道の修行のため初来沖。 ・2010 年よりフランスのパリで三線を習い始める。現在はサバニにも目覚め、2018 年の座間味―那覇レースにも参加。 ・沖縄にとっての泡盛は、フランスブルゴーニュ地方にとってのワイン同様に、祝い事や食文化になくてはならないもの。 ・泡盛の味だけではなく、あらゆる国籍のあらゆる年代の人々同士とのつながりを作る能力を持つところが好き。
3	伝統・文化	 ポール・ロリマー	ニュージーランド	・陶芸家 ・陶芸を学ぶために40年前に来日。沖縄移住37年目。 ・20年前から泡盛の古酒造りにも力を入れている。土の成分分析をした沖縄各地の土を使って甕を作り、味の変化を研究。 ・崎山酒造廠は同氏の甕を使用。
4	伝統・文化	 ユディット・ロムハニィ	ハンガリー	・沖縄科学技術大学院大学 博士研究員(専門:理論物理学) ・沖縄在住2年目。ハンガリーで博士号を取得後、ドレスデン(ドイツ)のリブニッツ学院、シュトゥットガルトのマックス・プランク学院で博士研究員として勤務。 ・沖縄では琉球空手や書道を学び始め、自然あふれる沖縄の文化に魅力を感じている。食文化にも興味を持ち、お茶の作法や文化に感銘を受けている。 ・ブダペストやドレスデンの主要バーはほぼ網羅。泡盛は何度か飲んでいるが、まだお気に入りの商品は見つからない。

在沖外国人有識者等のプロフィール

	視点	氏名	出身 (国籍)	プロフィール
5	ビジネス	 レイチェル デイベッドソン	オーストラリア	・ヒルトン沖縄北谷リゾート・ダブルツリーbyヒルトン沖縄北谷リゾート統括総支配人、在沖米国商工会議所会頭（2016年より）、北谷町観光協会副会長 ・2013年来沖。以来、沖縄の文化とやさしくフレンドリーな人柄に魅了。 ・沖縄の文化、自然、歴史的な観光名所、地元の料理やドリンク等を国内外の観光客に積極的に宣伝。 ・両ホテルのレストランやバーで泡盛の販売、テイスティング、特製カクテルや泡盛イベントなどの定期的なプロモーションを実施。 ・ヒルトン沖縄北谷リゾートのイタリアンレストラン「コレンテ」で提供する10年古酒を使った泡盛のリゾットは人気の一品。
6	ビジネス	 サクダアキラ 佐久田明トニー	日本	・在沖米国商工会議所副会頭(元会頭2011-2012)WUB沖縄副会長、(株)WUBpedia代表取締役社長、沖縄ツーリスト(株)グローバル経営戦略室GM ・沖縄ツーリストでは、過去25年間で数千人以上の県内客、米軍家族のツアーコーディネーターとして約55カ国を訪問。 ・海外出張の際は、お土産に喜ばれる泡盛を積極的に持参(直近ではブラジルにも持参) ・最近では「那覇大綱挽きまつり」や「夏祭りin一万人のエイサー踊り隊前夜祭」の日本語及び英語での司会も務める。 ・泡盛のソーダ割「泡盛ハイボール」を愛飲。 ※WUB:(ワブ)ワールドワイド・ウチナーンチュ・ビジネス・アソシエーション
7	ユーザー	 イノウエ 井上タノム・ワン	タイ	・タイ料理店「シャム」(南城市)経営者、タイ交流協会メンバー ・30年前に来沖し、通訳等を経て、24年前に「シャム」をオープン。当初タイのラオロンを提供していたが、人気が無く泡盛に切り替え。 ・帰国の際は、必ずお土産として泡盛を持参。
8	インバウンド	 チョウチン センテイ 張陳 雪貞	台湾	・那覇市観光協会理事 ・御食事処ツバメ(那覇市)店主、36年前に公設市場2Fに開店。1Fの鮮魚店で購入した食材を加工調理して提供するスタイルを初導入。台湾のTV等で紹介されるなどインバウンド客を中心に人気店。泡盛も一般酒から高級酒まで取りそろえてお客ニーズに対応。
9	インバウンド	 ハヤシ リウ 速開 亮	日本	・株式会社ぐるなび沖縄営業所長 ・出身は神奈川県、沖縄移住9年目。 ・前職は酒造メーカーで8年間営業職として従事(仙台、山形、東京)。 ・お酒は大好きでワインから焼酎、泡盛(特にクセのあるもの)すべて愛飲。 ・インバウンド消費15兆円時代を見据え飲食マーケット3兆円が見込まれてくる中、沖縄飲食店からの地域活性化を図る。